

※ 網掛けした課題が懇談会で扱う課題（案）  
 ※ ● 各分会で扱う課題（案）、○ その他の課題  
 ※ 紫文字：第2回市民会議で追加した箇所  
 ※ 対応課題：当面の課題に対応した課題

■ 矢作川流域圏における課題（案）

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域分会			対応課題		
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海
治水	直轄管理区間の治水安全度向上	1	流下能力の確保 →関連課題 6	・ 越水の危険 (36~40k)		○			
		2	河道内樹木の伐開 →関連課題 18, 55	・ 樹林化による洪水流下阻害		○			
		3	堤防の強化	・ 堤防整備率が低い ・ 堤防の漏水 ・ 堤防の耐震性 ・ 護岸の根入れ不足		○			
		4	矢作古川への分派量低減	・ 洪水時の計画を上回る矢作古川への分派 (東海 (恵南) 豪雨時)		○			
		5	矢作ダムの機能向上	・ 洪水調節容量の不足		○			
	県・市町村管理中小河川の治水安全度向上	6	流下能力の確保 →関連課題 1	・ 支川の堤防高不足 ・ 支川の河積不足		○			
		7	内水対策	・ 洪水調節施設の不足 ・ まちづくりとの連携不足		○			○
	洪水流出の遅延、抑制のための平準化作用機能、蒸発散作用の維持	8	洪水流出の遅延、抑制に適した森林管理 →関連課題 15, 23, 52	・ 人工林の荒廃 (不健康人工林の発生) ・ 不健康人工林の間伐 (遅れ) ・ 里山、旧薪炭林の植生遷移 ・ 水源林の定量的な保水機能の把握不足 ・ 作業道整備による水源涵養機能の低下	●			●	
		9	山の田 (棚田) の保全 →関連課題 10, 16	・ 棚田の保全が図られていない ・ 山の田の定量的な保水機能の把握不足	●				
	内水処理	10	田・畑・ため池の保全 →関連課題 9, 16	・ 田、畑等における宅地化の進行 ・ 田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足		●			
	危機管理	11	地域防災力の向上	・ 水防団の高齢化等による担い手不足 ・ 過去の被災原因の周知不足 ・ 水防手法の伝承が不十分 ・ 治水に対する住民の意識が低い		●			●
利水	利水安全度の低下、渇水対応	12	利水安全度の向上	・ 水利用の増加、流量の減少 ・ 取水制限の頻発		○			
	河川水の適正な利用	13	水利用の情報提供	・ 取水実態の把握と情報公開の不足 ・ 水循環についての理解不足		○			○
	流域の水収支バランスの把握	14	流域の水収支の実態把握	・ 流域の水収支の実態不明 ・ 地下水源の実態不明 ・ 利水者への理解不足		○			○

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題		
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海
利水	平水、低水、濁水流出の確保のための平準化作用の維持と蒸発散作用の抑制	15 平水、低水、濁水流出量確保に適した森林管理 →関連課題 8, 23, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の荒廃(不健康人工林の発生)</li> <li>不健康人工林の間伐(遅れ)</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>水源林の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>	●			●		
		16 田・畑・ため池の保全 →関連課題 9, 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>田、畑等における宅地化の進行</li> <li>田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足</li> <li>水田等の保水能力、浄化作用のPR不足</li> </ul>		●				
環境	矢作川らしい河川整備の推進	17 干潟、ヨシ原、砂州の保全・再生 →関連課題 27, 34	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂供給の減少</li> <li>干潟、ヨシ原の減少(0~2.5k)</li> <li>砂州の減少(18.5~20.5k)</li> </ul>		●	●			●
		18 河道内樹木の対策 →関連課題 2, 55	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂供給の減少</li> <li>樹林化の進行</li> </ul>		○				
	動植物の生息・生育環境の保全・再生	19 藻場・浅場の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>海草藻場(アマモ)の減少</li> </ul>			○			
		20 海生生物に配慮した海岸構造物の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>海生生物に対する海岸構造物の配慮不足</li> </ul>			○			
		21 川の連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川横断構造物による魚類等の移動阻害(鹿乗川取水堰、小島堰(矢作古川)、乙川頭首工、藤井床固工、明治用水頭首工)</li> <li>減水区間の存在</li> </ul>		○				
		22 川の攪乱と更新システムの再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の自然営力(ダイナミズム)の減少</li> <li>漂筋の固定化</li> <li>河床の粗流化</li> <li>河川の流砂量の減少による大型糸状緑藻(カワシオグサ)の異常繁茂</li> <li>氾濫源の不足</li> </ul>		○			○	
		23 動植物の生息生育環境として適正な森林管理 →関連課題 8, 15, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の荒廃による生物の生息環境等の劣化</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>人工林の間伐遅れ</li> <li>低コスト、大規模な木材搬出</li> </ul>	●			●		
		24 動植物の生息生育環境として適正な沿岸域の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟の減少(一色干潟)による生物の生息環境等の劣化</li> <li>沿岸域における生物相や生息場所の変移の発現</li> </ul>			○			○
		25 病害虫や野生鳥獣害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナラ枯れ</li> <li>クマ、シカ、サル、イノシシによる獣害</li> <li>森林資源の損失</li> <li>森林の公益的機能の低下</li> </ul>	○					

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題		
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海
環境	動植物の生息・生育環境の保全・再生	26	川と周辺を利用する生物に配慮した地域・まちづくり	・生物の生息環境に対する河道と周辺地域のつながりの配慮不足		●		●	
		27	矢作川を特徴づける種の生育環境の保全・再生 →関連課題 17, 34	・干潟の減少（イカルチドリ） ・砂州の減少（コアジサシ） ・砂礫底の減少（キイロヤマトンボ） ・海底付近にすむ魚介類の減少		●	●		●
		28	外来種対策	・ブラックバス、ブルーギルの生息（ダム湖、上中流） ・カワヒバリガイの生息（中流） ・セイタカアワダチソウの繁茂 ・オオカナダモの繁茂 ・アライグマによる被害（恵那市） ・アメリカナマズやカダヤシの生息	●	●			●
	自然とのふれあいの増進	29	自然に配慮した河川空間利用の促進	・自然環境への配慮不足		●			●
		30	人と川とのふれあい増進	・親水空間の不足（中流） ・親水利用への配慮不足 ・親水利用（ダム湖）とのふれあい不足	●	●			●
		31	子どもたちの身近な自然とのふれあい機会の創出（次世代への継承）	・川との触れ合いの場が不十分 ・環境教育の場としての活用が不十分 ・学校教育との連携不足 ・子どもの海離れの進行	●	●	●		●
		32	利用マナーの向上	・水上バイクやラジコンのトラブル（明治用水頭首工） ・海への関心の薄れ ・砂浜への車両乗り入れ ・遊泳者やマリンスポーツ関係者の無謀な行為 ・栽培花卉の持ち出し ・河川敷利用に伴うゴミや汚物の不法投棄			●	●	●
		33	水辺へのアクセス向上	・堤防及び水辺へのアクセスが不十分 ・河川空間のゾーニングに対する配慮不足		●	●		●
	良好な景観の維持、形成	34	矢作川らしい景観の維持・創出 →関連課題 17, 27	・砂州の減少 ・干潟・ヨシ原の減少		●	●		●
		35	景観阻害要因の除去 →関連課題 63	・ゴミや汚物の不法投棄 ・家電製品の不法投棄 ・船舶の不法係留、車両の不法放置 ・河道内樹木による眺望阻害 ・流木の河川等への流出		●	●		●

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題		
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海
環境	良好な水質の維持	36 三河湾における水質保全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤潮の発生</li> <li>アオサの発生</li> <li>苦潮の発生</li> <li>化学的物質に対する水質改善が不十分</li> <li>ケイ素の不足</li> </ul>			●			○
	良好な水質の維持	37 河川の水質浄化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>支川（矢作古川、鹿乗川、乙川等）の水質が悪い</li> <li>河川への水量減少</li> <li>濁水の発生</li> <li>合成洗剤の河川への流出</li> </ul>		○				
		38 流域対策の推進（排出負荷の削減）	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併浄化槽の整備が不十分（上流）</li> <li>污水处理施設の整備率が低い（全国より-13%）</li> <li>大腸菌群数が環境基準を未達成</li> <li>下水道処理人口普及率が低い（全国より-10%）</li> </ul>			●			
		39 ダム湖内対策（冷濁水対策、土砂流出対策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流域の人工林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い）</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>冷濁水放流の長期化</li> <li>富栄養化の恐れ</li> </ul>	○					
	海生生物の生息に関する適正な水量の把握と確保	40 海生生物の生息に関する淡水の必要量の把握と確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>海生生物の生息に関する淡水の影響が不明</li> <li>海底湧水量の実態の不明</li> <li>沿岸域における淡水の正常流量（流入量）の把握（と確保）が不十分</li> </ul>			○			○
地域活性化	村人づくり	41 定住促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>過疎化の進展</li> <li>少子高齢化の進展</li> <li>山の担い手不足</li> <li>定住促進対策不足</li> </ul>	●			●		
	地域間交流の推進	42 上下流交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流への意識の低さ</li> <li>上流に対する沿岸域、海域の現状やニーズの発信不足</li> <li>流域住民の参加を促す取組みが不足（山の応援団づくりの推進）</li> <li>上下流の相互理解の不足</li> </ul>	●		●	●		
	まちづくりとの連携	43 まちづくりと一体となった河川環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりと川づくりのつながり不足</li> <li>観光資源としての活用不足</li> </ul>		●			●	
		44 水辺のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続性のある遊歩道の整備が不十分</li> </ul>		●				

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題		
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海
		45 河川管理用通路の適正利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通過交通によりクラック発生</li> <li>・ 堤防天端道路が狭くて危険</li> <li>・ 緊急車両の通行阻害</li> </ul>		●				
地域活性化	地域固有の歴史・文化を活かした川づくり	46 歴史的資産、景観の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浮世絵に描かれるような歴史的景観の維持・保全する取組みの不足</li> </ul>		●				
		47 川にまつわる伝統行事の維持・継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 竜宮大社の祭事の継続が懸念（淵の保全）</li> </ul>		●				
	産業の振興	48 水源地域の産業の振興（林業、観光等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林業経営不振、山の担い手不足</li> <li>・ 人工林の荒廃（不健康人工林の発生）</li> <li>・ 里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>・ 下流域の支援不足（地材地建の推進、上下流をビジネスサイクルで回す産業振興）</li> <li>・ 上流域での自活の困難性</li> <li>・ 基金等による資金支援が不十分</li> <li>・ 木材の価値の低迷</li> <li>・ 外国産材の輸入</li> <li>・ 木材以外の森林の価値の創造</li> <li>・ アクアツーリズム、森林セラピー等の観光振興</li> </ul>	●			●		
		49 漁業環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカガいの激減</li> <li>・ ナマコ類の減少</li> <li>・ 貝類、エビ・カニ類の減少</li> <li>・ アユのそ上阻害（上流）</li> <li>・ 土砂による漁業被害</li> </ul>		●	●			
総合土砂管理	流域一体となった土砂対策	50 適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流域での土砂の堆積（東海・恵南豪雨の影響）</li> <li>・ 下流域への供給土砂の減少</li> <li>・ 流域での土砂収支バランスの不一致</li> <li>・ 土砂管理に対する技術的な具体性を持った議論の不足</li> </ul>	●	●	●			●
	土砂災害・流木被害の軽減	51 適正な治山・砂防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常時の流出土砂の発生</li> <li>・ 大雨、地震による斜面崩壊、土石流の発生</li> </ul>	○					
		52 土砂流出、流木被害防止に適した森林管理 →関連課題 8, 15, 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的知識の不足</li> <li>・ 人工林の質的荒廃</li> <li>・ 不健康人工林の増加</li> <li>・ 里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>・ 流木の発生</li> <li>・ 作業道による土砂崩壊</li> </ul>	●			●		
	矢作ダム堆砂対策	53 矢作ダム堆砂対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダム湖の堆砂の進行</li> <li>・ ダム湖への流入土砂の増加</li> </ul>	●					
河道安定化対策	54 河道安定化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土砂による樹林化、河床低下等の河道への影響</li> </ul>		○					

分野	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題				
	大分類	小分類		山	川	海	山	川	海		
維持管理	河道管理	55	樹木の適正管理 →関連課題 2, 18	・ 樹林化の進行 ・ 柔軟な樹木管理ができていない		○			○		
		56	河道内の除草	・ 草刈りの回数が少ない ・ 刈草置き場の確保不足 ・ カメムシの異常発生		●					
維持管理	河川管理施設の管理	57	河川管理施設の適正管理	・ 河川管理施設の劣化		○					
	矢作ダム管理	58	適正なダム管理	・ ダム湖への流木の流入 ・ ダム湖への栄養塩、有機物の流入 ・ 河川への流木の流出 ・ 濁水の長期化	●	●			●		
	許可工作物の管理	59	許可工作物の適正管理	・ 現行の技術基準を満足していない工作物が存在している		○					
	危機管理対策	60	情報ネットワークの構築	・ 情報ネットワークが脆弱		●					
		61	水質事故への迅速な対応	・ 水質事故の頻発		○					
		62	地球温暖化の影響把握と対策	・ 海面上昇への懸念			○				
	不法投棄への対応	63	不法投棄対策 →関連課題 35	・ 不法係留、不法放置、不法投棄 ・ 海岸への流入ゴミ ・ 漂着物処理の負担増		●	●		●	●	
		64	河川清掃の促進	・ 河川清掃等への意識の低さ		●					
	流域圏運命共同体としての意識向上	65	流域内の連携強化	・ 行政間の連携不足(市町村内部局間、市町村間、県と市町村、県と県、国と市町村) ・ 矢作川水源基金の有効活用 ・ 官学民連携不足 ・ 上下流交流の不足 ・ 行政への過度な期待	●	●	●		●		
		66	情報共有・啓発活動の推進	・ 情報共有基盤の不足 ・ 共同体意識の不足 ・ 水に親しむなど水循環の観点からの啓発活動の不足 ・ 支川に関する情報提供不足	●	●	●		●		
67		総合的な見地、透明性、客観性を持った取り組み	・ 多様な視点での検討不足	●	●	●					

■矢作川流域圏における課題（案） 山部会

※対応課題: 当面の課題に対応した課題

対応課題欄は「 A. 人に関わる課題、 B. 森に関わる課題 」に対応

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
治水	洪水流出の遅延、抑制のための平準化作用、蒸発散作用の維持	8 洪水流出の遅延、抑制に適した森林管理 →関連課題 15, 23, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の荒廃（不健康人工林の発生）</li> <li>不健康人工林の間伐（遅れ）</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>水源林の定量的な保水機能の把握不足</li> <li>作業道整備による水源涵養機能の低下</li> </ul>	B
		9 山の田（棚田）の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>棚田の保全が図られていない</li> <li>山の田の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>	
利水	平水、低水、濁水流出の確保のための平準化作用の維持と蒸発散作用の抑制	15 平水、低水、濁水流出量確保に適した森林管理 →関連課題 8, 23, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の荒廃（不健康人工林の発生）</li> <li>不健康人工林の間伐（遅れ）</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>水源林の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>	B
環境	動植物の生息・生育環境の保全・再生	23 動植物の生息生育環境として適正な森林管理 →関連課題 8, 15, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林の荒廃による生物の生息環境等の劣化</li> <li>人工林の間伐遅れ</li> <li>低コスト、大規模な木材搬出</li> </ul>	B
		28 外来種対策（ダム湖）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラックバス、ブルーギルの生息（ダム湖）</li> <li>アライグマによる被害（恵那市）</li> </ul>	
	自然とのふれあいの増進	30 人と川とのふれあい増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>親水利用（ダム湖）とのふれあい不足</li> </ul>	
		31 子どもたちの身近な自然との触れあい機会の創出（次世代への継承）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育の場としての活用が不十分</li> <li>学校教育との連携不足</li> </ul>	
地域活性化	村人づくり	41 定住促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>過疎化の進展</li> <li>少子高齢化の進展</li> <li>山の担い手不足</li> <li>定住促進対策不足</li> </ul>	A
	地域間交流の推進	42 上下流交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流への意識の低さ</li> <li>流域住民の参加を促す取組みが不足（山の応援団づくりの推進）</li> <li>上下流の相互理解の不足</li> </ul>	A
	産業の振興	48 水源地域の産業の振興（林業、観光等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>林業経営不振、山の担い手不足</li> <li>人工林の荒廃（不健康人工林の発生）</li> <li>里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>下流域の支援不足（地材地建の推進、上下流をビジネスサイクルで回す産業振興）</li> <li>上流域での自活の困難性</li> <li>基金等による資金支援が不十分</li> <li>木材の価値の低迷</li> <li>外国産材の輸入</li> <li>木材以外の森林の価値の創造</li> <li>アクアツーリズム、森林セラピー等の観光振興</li> </ul>	A

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
総合土砂管理	流域一体となった土砂対策	50 適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流域での土砂の堆積（東海・恵南豪雨の影響）</li> <li>・ 下流域への供給土砂の減少</li> <li>・ 流域での土砂収支バランスの不一致</li> <li>・ 土砂管理に対する技術的な具体性を持った議論の不足</li> </ul>	
	土砂災害・流木被害の軽減	52 土砂流出、流木被害防止に適した森林管理 →関連課題 8, 15, 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的知識の不足</li> <li>・ 人工林の質的荒廃</li> <li>・ 不健康人工林の増加</li> <li>・ 里山、旧薪炭林の植生遷移</li> <li>・ 流木の発生</li> <li>・ 作業道による土砂崩壊</li> </ul>	B
	矢作ダム堆砂対策	53 矢作ダム堆砂対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダム湖の堆砂の進行</li> <li>・ ダム湖への流入土砂の増加</li> </ul>	
維持管理	矢作ダム管理	58 適正なダム管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダム湖への流木の流入</li> <li>・ ダム湖への栄養塩、有機物の流入</li> <li>・ 濁水の長期化（ダム湖）</li> </ul>	
	流域圏運命共同体としての意識向上	65 流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政間の連携不足（市町村内部局間、市町村間、県と市町村、県と県、国と市町村）</li> <li>・ 矢作川水源基金の有効活用</li> <li>・ 官学民連携不足</li> <li>・ 上下流交流の不足</li> <li>・ 行政への過度な期待</li> </ul>	
		66 情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報共有基盤の不足</li> <li>・ 共同体意識の不足</li> <li>・ 水に親しむなど水循環の観点からの啓発活動の不足</li> </ul>	
		67 総合的な見地、透明性、客観性を持った取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な視点での検討不足</li> </ul>	



■矢作川流域圏における課題（案） 川部会

※対応課題:当面の課題に対応した課題

検討課題欄は「 1 A. 川と地先の関係、 1 B. 川全体の理解、 1 C. 上下流問題  
2 A. 流域内の情報共有・連携強化、 2 B. 川とまちづくりの連携強化、  
2 C. 生物の生息場所の確保 」に対応

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
治水	内水処理	10 田・畑・ため池の 保全 →関連課題 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>田、畑等における宅地化の進行</li> <li>田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>	
	危機管理	11 地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>水防団の高齢化等による担い手不足</li> <li>過去の被災原因の周知不足</li> <li>水防手法の伝承が不十分</li> <li>治水に対する住民の意識が低い</li> </ul>	1 B
利水	流域の保水機能維持	16 田・畑・ため池の 保全 →関連課題 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>田、畑等における宅地化の進行</li> <li>田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足</li> <li>水田等の保水能力、浄化作用のPR不足</li> </ul>	
環境	矢作川らしい河川整備の推進	17 干潟、ヨシ原、砂州の 保全・再生 →関連課題 27, 34	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂供給の減少</li> <li>干潟、ヨシ原の減少 (0~2.5k)</li> <li>砂州の減少 (18.5~20.5k)</li> </ul>	
環境	動植物の生息・生育環境の 保全・再生	26 川と周辺を利用する 生物に配慮した 地域・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の生息環境に対する河道と周辺地域の つながりの配慮不足</li> </ul>	1 A
		27 矢作川を特徴づけ る種の生育環境の 保全・再生 →関連課題 17, 34	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟の減少 (イカルチドリ)</li> <li>砂州の減少 (コアジサシ)</li> <li>砂礫底の減少 (キイロヤマトンボ)</li> </ul>	2 C
		28 外来種対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラックバス、ブルーギルの生息 (上中流)</li> <li>カワヒバリガイの生息 (中流)</li> <li>セイタカアワダチソウの繁茂</li> <li>オオカナダモの繁茂</li> <li>アメリカナマズやカダヤシの生息</li> </ul>	1 A
	自然とのふれあいの増進	29 自然に配慮した河川 空間利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境への配慮不足</li> </ul>	1 A
		30 人と川とのふれあ い増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>親水空間の不足 (中流)</li> <li>親水利用への配慮不足</li> <li>親水利用 (ダム湖) とのふれあい不足</li> </ul>	1 A
		31 子どもたちの身近 な自然とのふれあ い機会の創出 (次 世代への継承)	<ul style="list-style-type: none"> <li>川との触れ合いの場が不十分</li> <li>環境教育の場としての活用が不十分</li> <li>学校教育との連携不足</li> </ul>	1 A
		32 利用マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>水上バイクやラジコンのトラブル (明治用水頭首工)</li> <li>栽培花卉の持ち出し</li> <li>河川敷利用に伴うゴミや汚物の不法投棄</li> </ul>	1 A 2 A

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
		33 水辺へのアクセス向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防及び水辺へのアクセスが不十分</li> <li>・河川空間のゾーニングに対する配慮不足</li> </ul>	1 A 2 B
環境	良好な景観の維持、形成	34 矢作川らしい景観の維持・創出 →関連課題 17, 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂州の減少</li> <li>・干潟・ヨシ原の減少</li> </ul>	
		35 景観阻害要因の除去 →関連課題 63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミや汚物の不法投棄</li> <li>・家電製品の不法投棄</li> <li>・船舶の不法係留、車両の不法放置</li> <li>・河道内樹木による眺望阻害</li> <li>・流木の河川等への流出</li> </ul>	
	良好な水質の維持	38 流域対策の推進 (排出負荷の削減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併浄化槽の整備が不十分(上流)</li> <li>・污水处理施設の整備率が低い(全国より-13%)</li> <li>・大腸菌群数が環境基準を未達成</li> <li>・下水道処理人口普及率が低い(全国より-10%)</li> </ul>	
地域活性化	まちづくりとの連携	43 まちづくりと一体となった河川環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりと川づくりのつながり不足</li> <li>・観光資源としての活用不足</li> </ul>	2 B
		44 水辺のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続性のある遊歩道の整備が不十分</li> </ul>	
		45 河川管理用通路の適正利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過交通によりクラック発生</li> <li>・堤防天端道路が狭くて危険</li> <li>・緊急車両の通行阻害</li> </ul>	
	地域固有の歴史・文化を活かした川づくり	46 歴史的資産、景観の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮世絵に描かれるような歴史的景観の維持・保全する取組みの不足</li> </ul>	
		47 川にまつわる伝統行事の維持・継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜宮大社の祭事の継続が懸念(淵の保全)</li> </ul>	
	産業の振興	49 漁業環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アユのそ上阻害(上流)</li> <li>・土砂による漁業被害</li> <li>・土砂流出による濁水の発生</li> </ul>	
総合土砂管理	流域一体となった土砂対策	50 適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流域での土砂の堆積(東海・恵南豪雨の影響)</li> <li>・下流域への供給土砂の減少</li> <li>・流域での土砂収支バランスの不一致</li> </ul>	
維持管理	河道管理	56 河道内の除草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りの回数が少ない</li> <li>・刈草置き場の確保不足</li> <li>・カメムシの異常発生</li> </ul>	
	矢作ダム管理	58 適正なダム管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川への流木の流出</li> <li>・濁水の長期化</li> </ul>	1 C
	危機管理対策	60 情報ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報ネットワークが脆弱</li> </ul>	
	不法投棄への対応	63 不法投棄対策 →関連課題 35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法係留、不法放置、不法投棄</li> <li>・漂着物処理の負担増</li> </ul>	1 C

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
		64 河川清掃の促進	河川清掃等への意識の低さ	
維持管理	流域圏運命共同体としての意識向上	65 流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政間の連携不足（市町村内部局間、市町村間、県と市町村、県と県、国と市町村）</li> <li>・ 矢作川水源基金の有効活用</li> <li>・ 官学民連携不足</li> <li>・ 上下流交流の不足</li> <li>・ 行政への過度な期待</li> </ul>	2 A
		66 情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報共有基盤の不足</li> <li>・ 共同体意識の不足</li> <li>・ 水に親しむなど水循環の観点からの啓発活動の不足</li> <li>・ 支川に関する情報提供不足</li> </ul>	1 B
		67 総合的な見地、透明性、客観性を持った取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な視点での検討不足</li> </ul>	

■矢作川流域圏における課題（案） 海部会

※対応課題: 当面の課題に対応した課題

検討課題は「A. 土砂管理（干潟の保全・再生）、B. 海側からみた水量・物質量の把握と確保、  
C. ゴミの減量・不法投棄の対策」に対応

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
環境	矢作川らしい河川整備の推進	17 干潟、ヨシ原、砂州の保全・再生 →関連課題 27, 34	・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少 (0~2.5k)	A
	動植物の生息・生育環境の保全・再生	27 矢作川を特徴づける種の生育環境の保全・再生 →関連課題 17, 34	・海底付近にすむ魚介類の減少	
	自然とのふれあいの増進	31 子どもたちの身近な自然との触れあい機会の創出（次世代への継承）	・環境教育の場としての活用が不十分 ・学校教育との連携不足 ・子どもの海離れの進行	
		32 利用マナーの向上	・海への関心の薄れ ・砂浜への車両乗り入れ ・遊泳者やマリンレジャー関係者の無謀な行為	
		33 水辺へのアクセス向上	・水辺へのアクセスが不十分	
	良好な景観の維持、形成	34 矢作川らしい景観の維持・創出 →関連課題 17, 27	・干潟・ヨシ原の減少	A
		35 景観阻害要因の除去 →関連課題 63	・ゴミや汚物の不法投棄 ・船舶の不法係留、車両の不法放置 ・流木の河川等への流出	C
良好な水質の維持	36 三河湾における水質保全対策	・ケイ素の不足		
地域活性化	地域間交流の推進	42 上下流交流の推進	・上流に対する沿岸域、海域の現状やニーズの発信不足	
	産業の振興	49 漁業環境の保全	・アカガイの激減 ・ナマコ類の減少 ・貝類、エビ・カニ類の減少 ・土砂による漁業被害	
総合土砂管理	流域一体となった土砂対策	50 適正な土砂管理	・上流域での土砂の堆積（東海・恵南豪雨の影響） ・下流域への供給土砂の減少 ・流域での土砂収支バランスの不一致 ・土砂管理に対する技術的な具体性を持った議論の不足	A
維持管理	不法投棄への対応	63 不法投棄対策 →関連課題 35	・不法係留、不法放置、不法投棄 ・海岸への流入ゴミ ・漂着物処理の負担増	C

分野	課題		問題点 (キーワード)	対応 課題
	大分類	小分類		
維持管理	流域圏運命共同体としての意識向上	65 流域内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政間の連携不足（市町村内部局間、市町村間、県と市町村、県と県）</li> <li>矢作川水源基金の有効活用</li> <li>官学民連携不足</li> <li>上下流交流の不足</li> <li>行政への過度な期待</li> </ul>	
	流域圏運命共同体としての意識向上	66 情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有基盤の不足</li> <li>共同体意識の不足</li> <li>水に親しむなど水循環の観点からの啓発活動の不足</li> </ul>	
		67 総合的な見地、透明性、客観性を持った取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な視点での検討不足</li> </ul>	

- ※ 網掛けした課題が懇談会で扱う課題（案） ※ 青文字：第1回地域部会で追加した箇所
- ※ 赤文字：第1回市民会議で出された課題 ※ 紫文字：第2回市民会議で追加した箇所
- ※ 緑文字：第1回市民会議後に修正した箇所 ※ 対応課題：当面の課題に対応した課題

## ■ 矢作川流域圏における課題（案）根拠

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題	委員会の意見	根拠	
	大分類	小分類		山	川	海				
治水	直轄管理区間の治水安全度向上	No.1	流下能力の確保 一般課題6	・ 越水の危険 (36~40k)				<p>橋の首狭窄部の改修。</p> <p>豊田市内の橋の首狭窄部をはじめ、各所で東海（恵南）豪雨に対する河道の流下能力が不足しており、堤防整備や河運掘削等が必要</p> <p>平成12年9月の東海豪雨では、矢作川の橋の首狭窄部上流の豊田市では越水や漏水が発生し、多大な被害が発生</p> <p>東海豪雨の際、上流部の豊田市街地の一部区間で越水が発生した。</p> <p>東海豪雨では九澄橋付近であと1m程で溢れる状態だった。</p> <p>安城川島付近での樹木は、堤防下側のも少し残して、（堤防強化の為）残りは全て除いて欲しい。</p> <p>美矢井橋～新幹線（16k～18k区間）までの橋木の伐採を早期要望。</p> <p>乙川合流点付近下流では、河岸の樹林化が洪水流下の支障となっており、河運掘削に加えて樹木伐期も必要</p> <p>砂州の親縁孤丈や糧生による河積阻害が見られる</p> <p>河川敷の小段及び中洲に立木の伐採をお願いしたい。</p> <p><b>上昇してしまつた河床をどうするかが急務である。特に、河床が上昇すると樹木が繁茂しやすいので、どの程度、伐採するのかを今後、検討していく必要がある。</b></p> <p>15k～16k区間の右岸に漏水がある。</p> <p>名鉄三河線矢作川橋梁付近等において未施行箇所があり、堤防の脆弱箇所がある。</p> <p>中堤防の舗装を突端まで行っていたらいい。</p> <p>浸透に対する安全性を確保するために対策が必要な区間の延長は、点検実施済区間の約7割</p> <p>堤防断面の不足している区間が多く残されている</p> <p>護岸の根入れ等が不足する区間が顕在化</p> <p>砂河川であるため、水質部は、洗掘されやすい</p> <p>東海地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されたことを受け、耐震点検を行うとともに、必要に応じて対策を行う必要がある。</p> <p>大規模地震災害の危険性が高いことから、河川管理施設の耐震点検・耐震化が課題となっている。</p> <p>堤防整備率は、完成約35%と中継管内でもかなり低い整備水準にある</p> <p>矢作古川沿川の浸水被害源には、分流量低減の対策等が必要である。</p> <p>平成12年（2000）9月洪水（東海（恵南）豪雨）時には、計画を上回る流量が矢作川から矢作古川へ分派</p> <p>既設矢作ダムは、工事実施基本計画以前の計画に基づき計画規模1/80で整備されており、既定計画の1/150に対応していない。</p> <p>矢作ダムの放流施設規模は、河川整備基本方針で定めている計画規模の放流には対応していない</p> <p>東海豪雨の際、本川の青水や支川の堤防高不足・河積不足等により、浸水被害が発生した。</p> <p><b>支川についても河積不足が明らか場所は明示すべき</b></p>	第2回行政連絡会（西三河総合庁舎） 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会（豊田） 第2回住民懇談会（岡崎） 第2回住民懇談会（岡崎） 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会（岡崎） <b>第1回市民会議</b> 第2回行政連絡会（西三河総合庁舎） 第2回行政連絡会（西三河総合庁舎） 第2回住民懇談会（西尾） 矢作川水系河川整備計画 矢作川水系河川整備計画 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第1回地域部会（川部会②） 矢作川水系河川整備計画 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第1回地域部会（川部会②） 矢作川水系河川整備計画 第1回地域部会（川部会②）	
		No.2	河道内樹木の伐倒 一般課題18,55	・ 樹林化による洪水流下阻害						
		No.3	堤防の強化	・ 堤防整備率が低い ・ 堤防の漏水 ・ 堤防の耐震性 ・ 護岸の根入れ不足						
		No.4	矢作古川への分流量低減	・ 洪水時の計画を上回る矢作古川への分派（東海（恵南）豪雨時）						
		No.5	矢作ダムの機能向上	・ 洪水調節容量の不足						
		No.6	流下能力の確保 一般課題1	・ 支川の堤防高不足 ・ 支川の河積不足						
		No.7	内水対策	・ 洪水調節施設の不足 ・ まちづくりとの連携不足						

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			委員等々の意見	根拠		
	大分類	小分類		山	川	山			川	河
内水処理	洪水流出の遅延、抑制のための 平準化作用機能、蒸発散作用の 維持	8 洪水流出の遅延、抑制に適し た森林管理 一刷課題15, 23, 52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工林の荒廃（不健康人工林の発生）</li> <li>・不健康人工林の間伐（遅れ）</li> <li>・里山、旧森林の発生遷移</li> <li>・水源林の定量的な保水機能の把握不足</li> <li>・作業道整備による水源涵養機能の低下</li> </ul>				<p>上流域は森林荒廃が激しく、森林保全（治山、治水、育林等）に苦慮している。森林の荒廃による洪水時の土砂流出、流木の増加等による河川への悪影響が懸念される。</p> <p>針葉樹は、広葉樹に比べて土壌の保持力が弱く、適切な管理を怠ると土壌が流出しやすいため。</p> <p>東海豪雨時に流木が大量に流出し、洪水流下の支障となった。</p> <p>矢作川流域の地質は花崗岩で構成されており、土砂災害に弱く、水士保全機能が求められている。このような状況から森林整備が重要で、森林整備のあり方（森林の保全、広葉樹林化、林業のあり方等）が必要。</p> <p>広葉樹を植えるなど森林整備をし、保水能力を上げるべき。</p> <p><b>大雨、雪、台風等の災害に強い山づくり。</b></p> <p>水源林の保水機能は定量的にどの程度か、ということの情報・知識・理解の不足</p> <p>森林保全につながるが河川整備に取り組んで頂きたい。</p> <p>標高500mより上流では、スギ・ヒノキ人工林及び落葉広葉樹林が分布する山地が広がっているが、人工林の間伐が不十分であり荒廃が進んでいる箇所がある。</p> <p>よい材料、強い山林、多様な森林づくりのために、間伐等山の手入れの促進が必要だ。</p> <p>流域の森林保全、森林整備の促進を図ることが必要。</p> <p>人工林の間伐遅れが問題 →改善すれば生物の多様性や河川の問題解決につながる。</p> <p>作業道を入れると、山に降った水が運んで、すぐに川にでてしまう（流れも速くなっている） →作業道の入れ方も考えるべき。</p> <p>林野庁では、林道、作業道についての指針をつくっており、土砂崩壊や水処理に配慮したつくり方を整理している。</p> <p>上流の山を守ることで治水安全度を高める。</p> <p>洪水時の流量が減り、平常時の流量が増えるようにしたい。</p> <p>災害に強い山づくり →山の手入れ、木材利用、次世代に伝える林業</p> <p>沢に降った水は沢に戻すことが、一番災害が少ない。</p> <p>河川上流・中流部の天然のダムである山の田（棚田）の保全</p> <p>田畑、ため池の保水機能は定量的にどの程度か、ということの情報・知識・理解の不足</p> <p>現在の田・畑・ため池を利した治水事業が早くして有効的であると思います。田・畑、等へ補助金を出して残す工夫が助働性がある。</p> <p>田畑、ため池の保水機能は定量的にどの程度か、ということの情報・知識・理解の不足</p> <p>田・畑の保水機能を定量的に把握することは、農業の視点からは危険だと感じている。</p> <p>水防団員の減少、高齢化により防災力が低下している</p> <p>水防活動機会が減少し、水防手法の伝承が不十分である</p> <p>復旧・復興までを視野に入れ、災害を克服できる仕組みや対応を講じていくことが重要である。</p> <p>水防団員の減少や高齢化、洪水発生回数の減少により、水防手法の伝承が難しくなっており、水防団の強化、育成が必要</p> <p>過去に被災している箇所、被災の原因等を分析し、現状における課題を掘り起こす。また、これらの知見を住民（河川管理者へも）に周知し、災害に備える参事とする。</p> <p><b>治水（ハザードマップなど）について住民の方々の意識が低い。</b></p>	第2回行政連絡会（西三河総合庁舎） 第9回矢作川流域委員会 資料-4 第9回矢作川流域委員会 資料-4 第9回矢作川流域委員会 資料-4		
				9	山の田（棚田）の保全 一刷課題10, 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚田の保全が図られていない</li> <li>・山の田の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>				<p>第1回市民会議 第1回地域部会前、学識者照会 第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第1回市民会議 第1回市民会議 第1回地域部会（山部会）</p>
				10	田・畑・ため池の保全 一刷課題9, 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田・畑等における宅地化の進行</li> <li>・田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足</li> </ul>				<p>市民会議準備会 第1回地域部会前、学識者照会</p> <p>第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>第1回地域部会（山部会） 第1回地域部会（山部会） 第1回地域部会（山部会） 第1回地域部会（山部会）</p>
危機管理		11 地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水防団の高齢化等による担い手不足</li> <li>・過去の被災原因の周知不足</li> <li>・水防手法の伝承が不十分</li> <li>・治水に対する住民の意識が低い</li> </ul>				<p>第9回矢作川流域委員会 資料-4 第9回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 矢作川水系河川整備計画</p> <p>市民会議準備会 第1回地域部会（川部会①）</p>			

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			委員会等の意見	根拠
	大分類	小分類		山	川	海		
利水	利水安全度の低下、漏水対応	利水安全度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水利用の増加、流量の減少</li> <li>・ 取水制限の頻発</li> </ul>				利水安全度が低い。 利水安全度は近辺他水系の計画に比べて著しく見劣る。 昭和47年(1972)～平成18年(2006)の35年間の1/10 漏水流量は約2.4m <sup>3</sup> /s であり正常流量を大きく下回っている。 矢作川水系では、年間約6億2,600万m <sup>3</sup> の水を農業用水(約66%)、工業用水(約24%)、水道用水(約20%)として利用されており、こうした高い水需要に對して、毎年のように漏水による取水制限を受けており、生活や産業活動への影響を受けやすい。 中部の他水系と比べても河川水の利用率が高い 至近32年間で20回の取水制限が発生している。 近年の少雨化傾向や昭和40年代以降の水利用の増加により、河川流量が減少している。 普段の水が少なくならないようにしたい。 洪水を防ぐ、普段使う水をいかに確保するかが課題。 整備計画で示されている利水安全度の向上については検討した方がよい 漏水時の維持流量の調節が必要 利水面と環境面を考慮した維持流量の検討が必要 古川への分派量は、分派地高川川流量が古川の既得水利用量の8.6トン以下の時は全量古川に流しそれを上回ったら本川と古川で案分する。既得水利権優先を主張します。 矢作ダム利水計画において想定していた既得水利権需要量に對して、その後の実績取水量が大きく上回ったことが、矢作ダムの利水容量が不足している原因の一つであり、漏水が顕著する一因となっている。 農水は水利権設定値は雨を考慮しない等もあり、水利権量に比べて実績取水量が少くない。上工水は将来の水需要の見直しを考慮して水利権を設定しているため、水利権量に比べて現時点での実績取水量は少ない。 常に古川の水利権m <sup>3</sup> /sを維持できるように施設にしていきたい。 言われたものは全て分派の上流であり、分派の下流では本川に水利権がないので、吉良頭首工で水を止めないで、古川へも流して欲しい。 取水実績について情報と情報公開が不足している(水利権の設定と更新、取水量、利用水量の実績) 流域の方々には水を飲んでいるのに利水について知らない。	第10回流域委員会 第10回流域委員会 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画 第9回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第8回矢作川流域委員会 資料-4 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(川部会②) 第1回地域部会(川部会②) 第1回地域部会(川部会②) 第2回住民懇談会(西尾) 第9回矢作川流域委員会 資料-4 第9回矢作川流域委員会 資料-4 第2回住民懇談会(西尾) 第2回住民懇談会(西尾) 第1回地域部会前、学識者照会 第1回地域部会(川部会①) 第11回矢作川流域委員会 資料-3-4 第1回地域部会前、学識者照会 第1回地域部会前、学識者照会 第1回地域部会(川部会①)
				12				
	河川水の適正な利用	水利用の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取水実績の把握と情報公開の不足</li> <li>・ 水循環についての理解不足</li> </ul>					
	流域の水収支バランスの把握	流域の水収支の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流域の水収支の実態不明</li> <li>・ 地下水源の実態不明</li> <li>・ 利水者への理解不足</li> </ul>					
	14							



分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題	委員会等の意見	根拠
	大分類	小分類		山	川	海			
利水	平水、底水、濁水流出の確保のための平準化作用の維持と蒸散散作用の抑制	No 15 平水、底水、濁水流出量確保に適した森林管理 一般課題題8, 23, 52	・人工林の荒廃(不健康人工林の発生) ・不健康人工林の伐採(運れ) ・里山、日積林の植生遷移 ・水源林の定量的な保水機能の把握不足	●			森林は水源林として利水に大きく関係しており、森林の取り扱ひ改善で利水にも大きな影響がある。 森林と利水は非常に密接に関連している。 山を放棄すれば、荒れるばかりであり、夏は洪水、冬は水枯れが起こってしまうのではないかと。 水を生み出すのに、森林整備が必要。 水源林の保水機能は定量的にどの程度か、ということの情報・知識・理解の不足 人工林の間伐遅れが問題 →改善すれば生物の多様性や河川の問題解決につながる。 洪水時の流量が減り、平常時の流量が増えるようにしたい。	矢作川流域懇話会 設立総会前の意見照会 矢作川流域懇話会 設立総会 第1回市民会議 第1回市民会議 第1回地域部会前、学識者照会 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会)	
			No 16 田・畑・ため池の保全 一般課題題9, 10	・田、畑等における宅地化の進行 ・田・畑・ため池の定量的な保水機能の把握不足 ・水田等の保水能力、浄化作用のPR不足	●			矢作川総合事業の受益地内では、ため池がまだ残されているものの都市化の進展等に伴い減少してきている。 水田等の保水能力と浄化作用をもっとPRしていく必要がある 田畑、ため池の保水機能は定量的にどの程度か、ということの情報・知識・理解の不足 近年は河口干潟の減少等が進行している	明智川河川整備地域検討会 第1回地域部会前、学識者照会 矢作川水系河川整備計画
			No 17 干潟、ヨシ原、砂州の保全・再生 一般課題題27, 34	・土砂供給の減少 ・干潟、ヨシ原の減少(0~2.5k) ・砂州の減少(18.5~20.5k)	●		●	下流へ土砂供給がなされないことから、河川においては陸域化や河床低下の回復が望めない。また、河口域においては干潟の減少なども懸念されている。 干潟は1990年(平成2年)時点で1,549haであり、1978年(昭和53年)に比べ、10%(179ha)程度も減少した 河口付近の土砂が減少している。干潟の復活のために何とかしたい。 干潟の保全のためには、上下流交流が大切だ。 河口付近の土砂が減少している。干潟の復活のために何とかしたい。	第1回市民会議 第1回市民会議 第1回市民会議 第2回住民懇話会(西尾) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(豊田) 第3回矢作川流域委員会 資料-4
環境	動物物の生息・生育環境の保全・再生	No 18 河川内樹木の対策 一般課題題2, 55	・土砂供給の減少 ・樹林化の進行				西浅井町内・矢作川左岸3k~14k内の堤外民地の買収及び伐採をしてほしい 美矢井橋~新幹線までの樹木の伐採 16k~18k区間、樹木伐開 中州の樹木伐採(23k付近) 樹木伐採(31k付近)	第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎) 第2回住民懇話会(岡崎)	
			No 19 藻場・浅場の再生	・海藻藻場(アマモ)の減少				河川敷の小段及び中洲に立木の伐採をお願いしたい。S30~40年頃まではほとんど立木はなかったが、平成はじめより樹林化が著しい。 中州の樹木の伐開 矢作川漁業共同組合が進めている竹林伐採による、広葉樹河畔林整備との整合。(40k付近) 河川水利用の増加、砂利採取、ダム建設等に伴い、河川流量や土砂供給量が減少した。その結果、砂州形態が変化し、河川内樹林化が進行。 三河湾では理の立て等により干潟・浅場が失われつつあるほか、藻場が減少している	第2回住民懇話会(岡崎) 第3回矢作川流域委員会 資料-4
			No 20 海生生物に配慮した海岸構造物の検討	・海生生物に対する海岸構造物の配慮不足			○	三河湾の海岸構造物(アマモ)は、1955年(昭和30年)頃に6,800haあったが、1970年(昭和45年)頃には4,100haまで減少し、15年間で約94%の海岸構造物が失われた 消波ブロックなど、もっと自然・生態に配慮できないか	矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画 第1回地域部会



分類	大分類		課題		問題点 (キーワード)	地域部会		対応課題	委員会等の意見	掲載
	動物の生息・生育環境の保全・再生	小分類	No	内容		山川	海山			
環境	動物の生息・生育環境の保全・再生	動物の生息・生育環境として適正な沿岸域の管理	24	海底付近に住む魚介類が減少している。 湖にカモが現れるようになった。 干潟に住む生物の衣食住をしっかりと整える必要がある。 シラス、鮎など、自然環境が大切にされている。 海の生物が減少してきている。 国の政策で人工林の山になったため、動物たちが餌をとれず、里に下りて来る状況である。 中流部の里地での出現が増加している。防止対策を。 恵那市などではアライグマの被害がでてきている。 シカ、サル、イノシシなどによる山林の荒廃。 ナラ枯れの問題。	○				第1回地域部会 第1回地域部会 第1回地域部会 第1回地域部会 第1回地域部会 第1回市民会議 第1回市民会議 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会前、学識者懇談会 第1回地域部会(川部会①)	
			25	ナラ枯れ ・クマ、シカ、サル、イノシシによる獣害 ・森林資源の損失 ・森林の公益的機能の低下		○			第1回市民会議	
			26	川と周辺を利用する生物に配慮した地域・まちづくり	・ナラ枯れ ・生物の生息環境に対する河川と周辺地域のつながりの配慮不足	●			第1回地域部会(山部会)	
			27	矢作川を特徴づける種の生育環境の保全・再生 ・砂礫底の減少(キイロヤマトンボ)	・干潟の減少(イカルチドリ) ・砂洲の減少(コアサギ) ・砂礫底の減少(キイロヤマトンボ)	●	●		第2回住民懇談会(豊田) 第2回住民懇談会(豊田)	
			28	外来種対策	・ブラクハス、ブルーギルの生息(ダム湖、上中流) ・カワヒバリガイの生息(中流) ・セイタカアワダチソウの繁茂 ・オオカナダモの繁茂 ・アライグマによる被害(恵那市) ・アメリカナマズやカヤヤシの生息	●	●		第2回住民懇談会(豊田) 第12回矢作川流域委員会 資料4 矢作川水系河川整備計画 第12回矢作川流域委員会 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会②) 第12回矢作川流域委員会 資料4 第12回矢作川流域委員会 資料4 市民会議準備会 第1回市民会議 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会②)	
			29	自然に配慮した河川空間利用の促進	・自然環境への配慮不足				第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会②) 第12回矢作川流域委員会 資料4 第12回矢作川流域委員会 資料4 市民会議準備会 第1回市民会議 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会②)	
										現在実施されている多自然川づくりは、あまりよい整備がされていないので、改善が必要



分類	課題		回重点 (キーワード)	地域部会		対応課題	委員会等の意見	根拠
	大分類	小分類		山川	山川			
自然とのふれあいの増進	33	水辺へのアクセス向上	・堤防及び水辺へのアクセスが不十分 ・河川空間のゾーニングに対する配慮不足				水辺に行けるような道が欲しい(幅広くて行けない)(18k付近) 堤防及び水辺へのアクセスが難しい箇所もある。 人が海岸へ近づきやすくし、人と海とのふれあいの場を確保するため、既存の砂浜の保全・再生や海岸へのアクセス向上を図るとともに、港湾区域において、物流・産業機能に支障のない範囲で潮に潮しめる場を創出していく必要がある。 矢作川河川敷の整備内容に自治体間の差があるように感じており、どの自治体からも均等に矢作川に近づけるようしてほしい。 川へアプローチする方法がないので検討できないか。 利用する場所と保全する場所を考慮して、水辺へのアクセスを検討する必要がある(ゾーニング)	第2回住民懇談会(岡崎) 第1回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画 第1回市民会議 第1回地域部会(川部会①) 第1回地域部会(川部会②)
		良好な景観の維持・創出	・砂州の減少 ・干潟・ヨシ原の減少 ・ゴミや汚物の不法投棄 ・畜産製品の不法投棄 ・船舶の不法係留、車両の不法放置 ・河内内樹木による眺望阻害 ・流木の河川等への流出	●	●	●	矢作川の特徴である砂州や河口の干潟・ヨシ原が減少する等、かつての自然や景観が消失しつつある 名鉄橋の下流残骸の撤去(23k付近) 名鉄電車の下り残骸の撤去。 河川の竹林が密生しているため、豊田スタジアムのレストランから低水路の水面が見えなくなっている。 船舶の不法係留や車両などの不法放置、ゴミや汚物の不法投棄、落書きなどが発生し、景観を損ねるだけでなく、悪臭、保安、処理費用などの問題が発生している。 海岸利用者等による海岸への放置ゴミや陸域からの流入ゴミ等の散乱が、海岸の生態系や景観、そして海岸利用に悪影響を及ぼしている。 漂着ゴミでは、近年、河川等から流出したと考えられる流木が問題となっており、特に大雨、豪雨のあと大量に河川から海へ流入し、海岸保全施設・港湾機能・小型船舶の航行・景観及び親水空間・漁業に及ぼす影響が発生している。 フレジャーボート等の不法係留(放置艇問題)が問題になっている。	第2回住民懇談会(岡崎) 第2回住民懇談会(岡崎) 第2回住民懇談会(豊田) 第1回矢作川流域委員会 資料-4 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画 三河湾流域圏再生行動計画
		良好な水質の維持	・赤潮の発生 ・アオサの発生 ・苔潮の発生 ・化学的物質に対する水質改善が不十分 ・ケイ素の不足					干潟の減少、自浄作用低下、藻類の減少やアオサの発生といった海域での水質が問題視されている。 毎年赤潮が発生しており、冬期には藻類のりの色落ちを引き起こし、夏期には負酸素水塊の要因となるなど、大きな被害を与えている 三河湾内では三河湾における赤潮発生件数が非常に多い(図2-13)、2006年(平成18年)9月には最大規模の赤潮が発生した。赤潮は、景観の悪化や漁業被害、浅海域に生息する海産生物に致命的な影響を及ぼす場合がある。 「負酸素水塊」の抑制に効果が見込める方策やモニタリングの検討 川の河口域、出口の干潟は上流から勢よく水が流れないため、河口付近の海水と中流域の「汽水」の入れ替わりが不十分。 ケイ素の不足が赤潮につながっている。

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題	委員会等の意見	根拠
	大分類	小分類		山	川	海			
良好な水質の維持	No	37 河川の水質浄化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>支川（矢作古川、鹿藜川、乙川等）の水質が悪い</li> <li>河川への水量減少</li> <li>濁水の発生</li> <li>合成洗剤の河川への流出</li> </ul>				<p>矢作古川の水の浄化、水が濁った魚の住める川にしてみたい。</p> <p>支川の水質は悪く、流入する本川の水質にも影響するため、支川の水質も考慮すべき。</p> <p>鹿藜川、乙川等の支川は、依然として汚濁負荷量が高い</p> <p>下水道整備による河川への水量の減少</p> <p>生ゴミの完全堆肥化の啓蒙。EIIで有効利用（満量ではない）。市民のポカシ団子投入活動、動員。</p> <p>いつまでも進まない下水道対策で、改善されない矢作川の水質問題。下水処理のあり方について再考の時期にきている。浄化した後の水をすべて三河湾へ放流するのではなく、地域毎の上流で浄化後、河川放流する事で水質向上を図る。企業が自社処理をさせられている生活排水は、下水道へ取り込んで、水道処理コスト低減につなげる</p> <p>公共事業による濁水の影響を軽減したい。</p> <p>矢作川の問題は、濁水であると思う。</p> <p>造成工事に伴う濁水対策の実施を。</p> <p>油ヶ淵周辺の伐採時々の濁水は問題！</p> <p>地域によって水質に差がある。</p> <p>加茂川は臭た目はきれいな川だが、水質が悪いのが問題。</p> <p>合成洗剤の河川への流出が問題！</p>	<p>第2回住民懇談会（西尾）</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>市民会議準備会</p> <p>市民会議準備会</p> <p>市民会議準備会</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第2回市民会議</p> <p>第2回住民懇談会（豊田）</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて</p> <p>調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第2回行政連絡会</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて</p> <p>調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて</p> <p>第1回地域部会</p> <p>第1回地域部会</p> <p>第1回地域部会</p> <p>第1回地域部会</p>	
				38 流域対策の推進（排出負荷の削減）	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併浄化槽の整備が不十分（上流）</li> <li>汚水処理施設の整備率が低い（全国より13%）</li> <li>太陽菌群数が環境基準を未達成</li> <li>下水道処理人口普及率が低い（全国より10%）</li> </ul>				<p>上流域での合併浄化槽の普及</p> <p>矢作川流域の汚水処理施設整備率は平均で約64%だが、全国平均（77%）と比べると低く、また、流域内市町村の間の格差が大きい。</p> <p>太陽菌群数は環境基準を満たしておらず、水質改善のための対策が必要。</p> <p>下水道処理人口普及率が59.0%であり、東京湾や大阪湾の約90%に比べ大幅に低く、全国平均の69.3%も下回っている</p> <p>三河湾流域圏の市町村のうち、豊橋市、岡崎市及び刈谷市は合流式下水道を採用しているが、近年、雨上時処理汚水による放流先での水質の悪化、水利用者に対する景観・公衆衛生及び生態系への影響が懸念されている。</p> <p>河川の水質改善を図る下水道整備や、農薬排水等の取水による河川流量の減少や、河川環境に与える影響の検討が必要。なお、環境に対する農業のマイナスインプクトだけでなく、森林や産地等のプラスチックについて評価も必要。</p> <p>きれいな水と豊かな水量を確保するため、利水者も含めた関係者の合意形成が必要。</p> <p>農薬、畜産、塩カルが心配。浄化槽の整備など、きれいな水づくりを。</p> <p>とん舎、牛舎の尿処理。</p> <p>上流域は森林荒廃が激しく、森林保全（治山、治水、育林等）に苦慮している。</p> <p>矢作ダムの上流部放流及び集約化により、下流河道の河川環境や水質に支障が出ている。</p> <p>ダム湖内に窒素、リンが流入することから、富栄養化の恐れもある。</p> <p>ダムと河川における濁水対策の検討が必要。</p> <p>ダムでの堆砂、流入する土砂処理対策の検討が必要。</p> <p>海に流れる水は淡水を寒地できるのではないかと。</p> <p>海の塩のために、川の水が供給されることが重要である。</p> <p>どれだけの淡水が海に流入するのか。それが生物にどのような影響し、適正な量はどのくらいなのか知りた。</p> <p>農業用水や工業用水はあるが「農業用水」はない。</p> <p>海底湧水が、豊かな海に湧き出ているのではないかと。</p>
				39 ダム湖内対策（冷濁水対策、土砂流出対策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流域の人工林荒廃（山腹崩壊等による流出土砂が多い）</li> <li>里山、旧新緑林の再生遅延</li> <li>冷濁水放流の長期化</li> <li>富栄養化の恐れ</li> </ul>				<p>海生物の生態に関する淡水の影響が不明</p> <p>海底湧水量の把握と確保</p> <p>沿岸域における淡水の正常流量（流入量）の把握（と確保）が不十分</p>
海生物の生態に関する適正な水量の把握と確保	40 海生物の生態に関する淡水の必要量の把握と確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>海生物の生態に関する淡水の影響が不明</li> <li>海底湧水量の把握と確保</li> <li>沿岸域における淡水の正常流量（流入量）の把握（と確保）が不十分</li> </ul>							

分類	課題		同問題点 (キーワード)	地域部会		対応課題	委員会等の意見		根拠
	大分類	小分類		山	海		山	海	
地域固有の歴史・文化を活かした川づくり	人づくり	41 定住促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化の進展</li> <li>・少子高齢化の進展</li> <li>・山の担い手不足</li> <li>・定住促進対策不足</li> </ul>					森林の荒廃とあわせて、山間部の人口が減少している。林業の振興が山間部の地域再生につながる。 上流に住んでいる人がいない。 旧作手村には、小学校4つあるが、全生徒徒数はそれぞれ4人、10人、29人と子どもが少くない。 過疎化が進行している。一若者に定住してほしい。 山を守る人がいなくなっている。 日常的に山を守る人が必要。 担い手の確保やよそ者をいれる対策も急ぎてきたのではないかと感じる。	矢作川流域圏懇談会 設立総会 第1回市民会議 第1回市民会議 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 住民説明会(恵那市車原) 第9回矢作川流域委員会 資料-4 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 矢作川流域圏懇談会 設立総会 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 第1回地域部会(山部会) 三河湾流域圏再生行動計画 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて 第1回地域部会(川部会②) 第2回住民懇談会(西尾) 第2回住民懇談会(西尾) 第2回住民懇談会(岡崎) 第9回矢作川流域委員会 資料-4 矢作川水系河川整備計画 第2回住民懇談会(岡崎) 第2回住民懇談会(豊田) 第1回地域部会(山部会) 第2回住民懇談会(西尾)
		42 上下流交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流への意識の低さ</li> <li>・上流に対する公平地域・海城の現状やニーズの発掘不足</li> <li>・流域住民の参加を促す取組みが不足(山の応援回づくりの推進)</li> <li>・上下流の相互理解</li> </ul>				森林管理という視点から、上流の森林保全に下流が支援し取り組む結果が必要であり、行政、地域住民、NPOとの相互協力や、流域住民の参加を促すような組織づくり(勉強会やイベント等の開催)が必要。 河川の利用にあたっては、河川に対する愛着がわき、きれいな川の維持につながる住民参加を促すことが必要であり、あわせて利用者の交流を深める行政や市民レベルの様々な上下流連携が必要。 流域内の生徒、先生、住民等が上下流の自然を体験し、自然環境の保全に向けた上下流連携出来るような流域圏一体の交流が必要。 この流域内の人、物、お金、知恵を使って、山間部の再生につなげていきたい。 山の体験を通じて、上下流がお互いを知ることが必要。 山林整備の担い手が不足。一 downstream との交流を推進したい。 山の応援回づくりをしていきたい。 森林保全・水質確保をしたい。 住民参加型による親水性の向上への取り組みが進んでいるが、点的な水辺空間整備であり、地域のまちづくり等と連動した面的な広がりになっていないのが実態である。 川づくりにあたっては、きれいな水や豊かな水量の確保と合わせ、個々の行政レベルでのつながりや、流域全体のつながりが必要。このため、川を縦断的・横断的につなぐことを意識的に考えるとともに、より大きな輪になるように広げていくことが必要。 観光(景観)資源として川を利用してはどうか 連続性のある遊歩道の整備。 天端を利用した道路整備のネットワーク 堤防上の道路が、車両通行OKだが、道路幅が狭くて危険。 堤防天端の兼用道路化に伴い、通過交通により天端にクラックが発生。 堤防上の兼用道路は約55cm あり、一般交通の渋滞発生時には緊急の交通確保が困難となる等、河川巡視や水防活動の支障となっている 流域の自然環境が変化している。浮世絵に描かれるような歴史的景観を残す維持管理がこれからは、必要でないか。 豊田久保町尻ノ口公園の遊歩道が昔、矢作川の堤防だったという話を聞いた。「桜堤防」と地方では言っている。今後このような歴史的財産を保存することは計画されているか。 低コストで本規模に木材搬出を行えば、環境負荷が大きい。逆に、環境の負荷をかけるようにするとコストがかかるといふ構造がある。 小島の竜宮大社の祭事に支障とならないように川の確保が出来るように分派北の放水路を考えてほしい。		
		43 まちづくりと川の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりと一体となった河川環境整備</li> <li>・まちづくりと川づくりのつながり不足</li> <li>・観光資源としての活用不足</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続性のある遊歩道の整備が不十分</li> <li>・通過交通によりクラック発生</li> <li>・堤防天端道路が狭くて危険</li> <li>・緊急車両の通行阻害</li> </ul>		
		44 水辺のネットワークの形成							
45 河川管理用道路の適正利用									
46 歴史的資産・文化を活かし									
47 川にまつわる伝統行事の維持・継承									

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			委員会等の意見	組織
	大分類	小分類		山	川	海		
産業の振興	48	水源地域の産業の振興(林業、観光等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業経営不振、山の担い手不足</li> <li>・人工林の荒廃(不健康人工林の発生)</li> <li>・里山、旧植林の増生遷移</li> <li>・下流域の支援不足(木材地建の推進、上下流をリンクするサイクルで回す産業振興)</li> <li>・上流域での自治の困難性</li> <li>・基金等による資金支援が十分</li> <li>・木材の価値の低減</li> <li>・木材以外の森林の価値の創造</li> <li>・アクアツーリズム、森林セラピー等の観光振興</li> </ul>	●			<p>平成12年の災害で山崩れが多かったのは全伐した15年前後の箇所であった。切った木に補助金をつづけるのに加え、残した木に補助金をつづけるような方法が取れないか。災害の低減につながるかと考えられる。</p> <p>森林整備にあたっては、荒廃した民有林を保安林に指定し、間伐・除伐に公金を投入する制度(地域防災対策総合山事業)もあるが、保安林指定されることにより行為に制限がかかることから、民有林に対する助成制度や公的支援の見直しなど、抜本的な対策が必要。</p> <p>上流では過疎となり山の手入れができないう状況。下流では上流の問題を考えると厳しい。矢作川水源基金があるが、県が運ぶことにより、長野県まで回ってこないのが現状。</p> <p>森林整備・管理には多くの費用がかかる。基金等の弾力的運用(下流域の協力、県境・行政の枠組みを越えた基金の運用、基金の使い道)を図るため、基金の拡大・充実が必要。</p> <p>水源涵養を進める上で、上・中・下流域の住民負担なども考える必要がある。</p> <p>森林管理という視点から、上流の森林保全に下流が支援し取り組む結果が必要であり、行政、地域住民、NPOとの相互協力や、流域住民の参加を促すような組織づくり(勉強会やイベント等の開催)が必要。</p> <p>国土交通省の工事では流域の木材を利用する等の対応を希望している。</p> <p>森林経営の不振に伴い、間伐等の維持管理が、適切になされているとはいえず、山地崩壊、流木発生の原因のひとつと考えられる。</p> <p>林業従事者の育成と、間伐材利用の促進</p> <p>林産業の振興が森林再生につながる。</p> <p>現在のよう山中が荒廃したのは、木材価格が1/3程度になり、間伐をする動機づけがなくなってしまうため。</p> <p>木材価格の低迷により、森林保有者は間伐から手を引き、益々森林の荒廃と化している。</p> <p>戦後、国の政策で人工林を増やしてきたが、人工林比率70%では、多すぎる。国が間伐補助をもっと出すべきである。</p> <p>水源を中国企業が買っている。</p> <p>上下流をデジタルサイクルでまわす産業振興が必要。一 downstream から上流域への単なる支援ではなく持続可能性のある取り組みが必要。</p> <p>地域の振興と森林整備が一緒にできないか。</p> <p>日本の人工林、天然林を使うような世の中にしたい。</p> <p>間伐の推進と木材の有効利用が必要。</p> <p>森林を資源として木を使う・木造住宅を建てることを普及させたい。</p> <p>木材価格が低迷している。一改善すれば、森の手入れができ、環境がよくなくなる。</p> <p>開発を放棄した牧場・ゴルフ場などの森林回復がなされていない。</p> <p>アカガイは、三河湾の水深5~15mの飛躍の海域に生息しているが、漁獲量は貧酸系水塊面積が拡大した1970年代に激減し、1979年以降はほとんど獲れなくなっている。</p> <p>ナマコ類は三河湾の河口より瀬戸内へ生息し、稚ナマコは潮間帯から水深40mに分布し成長するに連れて徐々に移動するが、ナマコ類の漁獲量は1950年代後半から1970年頃にかけて減少している。</p> <p>湾内を中心に分布する貝類やエビ、カニ類などの多くは、漁獲量が長・中期的に減少しており、ガザミ、ハマグリ等の資源水準も低下したと考えられ、内湾環境の影響を受けている可能性がある。</p> <p>上流域にもアユがそよできるようにしてほしい。</p> <p>土砂の排出により漁業被害が三河湾で発生した場合は、どうするか。</p> <p>今後、川のかちを余り埋めないようにあるいは産卵場を破壊しない形で、海までどうやって流していくか。</p>	住民説明会(根羽村)
		産業の振興	49	漁業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカガイの激減</li> <li>・ナマコ類の減少</li> <li>・自類、エビ、カニ類の減少</li> <li>・アユの北上阻害(上流)</li> <li>・土砂による漁業被害</li> </ul>	●	●	



分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会		対応課題		委員会等の意見	掲載
	大分類	小分類		山川	山	川	海		
流域一体となった土砂対策	No 50	適正な土砂管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流域での土砂の堆積（東海・瀬南方面の影響）</li> <li>・下流域への供給土砂の減少</li> <li>・流域での土砂収支バランスの不一致</li> <li>・土砂管理に対する技術的な具休性を持った議論の不足</li> </ul>	●	●	●	●	下流へ土砂供給がなされないことから、河川においては陸域化や河床低下の回復が望めないなどの状況となっており、また、河口域においては干潟の減少なども懸念されている。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
				○				海には砂がなく、山では砂の処分困っているなどの矛盾があるため、これを流域一体でうまくまわすしくみを考えていきたい。	矢作川流域懇話会 設立総会
								流域内で検討しなければならない課題は、土砂収支の問題であり、この部分が弱く感じている。矢作ダムへは、東海・瀬南方面の影響で通常では処分できないほどの土砂の堆積がある一方、海では、良質な土砂の確保が必要である。そのため、海域での環境修復とダム等の構造物への堆積土砂の有効利用をどのように考えていくかを議論していくべきである。	第1回地域部会（山部会）
土砂災害・流木被害の軽減	No 51	適正な治山・砂防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時の流出土砂の発生</li> <li>・大雨、地震による斜面崩壊、土石流の発生</li> </ul>	○				地表の花崗岩はマサ化し崩壊しやすい特徴を有しており、山腹崩壊等による流出土砂が多い。	矢作川水系河川整備計画
								中流域では土石流が発生している。	第1回市民会議
								伐採した木材が流木となって下流へ流下しないよう努力をしているが、林野庁の補助だけでは不足している。	住民説明会（根羽村）
土砂流出、流木被害防止に留意した森林管理 → 関連課題8, 15, 23	No 52		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識の不足</li> <li>・人工林の質的劣化</li> <li>・不健康人工林の増加</li> <li>・里山、日影成林の植生遷移</li> <li>・流木の発生</li> <li>・作業道による土砂崩壊</li> </ul>	●	●	●		国が水源地のことを考えるという姿勢はうれしい。これまで自分たちで治山等を行ってきたが、現状を分析し、どこを助けたらよいかを明らかにして欲しい。河川治いの樹種の研究もあわせて行い、川を守る樹林の姿を明らかにしたい。	住民説明会（根羽村）
								森林の荒廃による洪水時の土砂流出、流木の増加等による河川への悪影響が懸念。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
								作業道が土砂崩壊につながることもある。	第1回地域部会（山部会）
矢作ダム堆砂対策	No 53	矢作ダム堆砂対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖の堆砂の進行</li> <li>・ダム湖への流入土砂の増加</li> </ul>					林野庁では、林道、作業道についての指針をつくっており、土砂崩壊や水処理に配慮したつくり方を整理している。	第1回地域部会（山部会）
								災害に強い山づくり 一山の手入れ、木材利用、次世代に伝える林業。	第1回地域部会（山部会）
								土砂問題を考えることが森林や環境保全にもつながる。	第1回地域部会（山部会）
河道安定化対策	No 54	河道安定化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂による腐植化、河床低下等の河川への影響</li> </ul>	○				完成後3～2年間で、計画堆砂量の95%が堆砂し、有効容量が減少したため、利水・治水調節への影響が懸念されており、流域全体の対策が必要になってい	第8回矢作川流域委員会 資料-4
								下流へ土砂供給がなされないことから、河川においては陸域化や河床低下の回復が望めないなどの状況となっており、また、河口域においては干潟の減少なども懸念されている。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
								河床低下を抑制する帯工等の設置による、矢作ダムへの流入土砂量の抑制。	住民説明会（根羽村）
河道安定化対策	No 54	河道安定化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂による腐植化、河床低下等の河川への影響</li> </ul>					計画堆砂量に近い堆砂が進んでいると共に、有効貯水容量内への堆砂があり、これが有効貯水容量の減少を招いている	第8回矢作川流域委員会 資料-4
								平成19年（2007）年度時点で計画堆砂量に対する堆砂量の割合が約103%となっている。	矢作川水系河川整備計画
								堆砂量は計画堆砂容量に対して約103%に達しており、堆砂の一部は貯水池上流に堆積し有効貯水容量の一部を侵している。	矢作川水系河川整備計画
河道安定化対策	No 54	河道安定化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂による腐植化、河床低下等の河川への影響</li> </ul>					東海豪雨の影響で斜面崩壊したところの森林回復がなされていない。一ダムの堆砂問題とも絡んでいるのではないかと	第1回地域部会（山部会）
								ダムができて土砂がこなくなり腐植化が進んだ。	第2回住民懇話会（岡崎）
								近年は河床材料の粗粒化、砂川の固定化、腐植化が進行している。	矢作川水系河川整備計画
河道安定化対策	No 54	河道安定化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂による腐植化、河床低下等の河川への影響</li> </ul>	○				ダム湖等への流入土砂の堆積により、下流河川への供給土砂量の減少が、河床低下の原因のひとつと考えられる。	第8回矢作川流域委員会 資料-4
								海には砂がなく、山では砂の処分困っているなどの矛盾があるため、これを流域一体でうまくまわすしくみを考えていきたい。	矢作川流域懇話会 設立総会

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会		対応課題	委員等々の意見		組織	
	大分類	小分類		山	川		山	川		
河川管理	河川管理	樹木の適正管理 一樹運課題2、18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林化の進行</li> <li>・柔軟な樹木管理ができていない</li> </ul>				河川内の雑木を可能な限り、流水がスムーズに流れるようにしてほしい。 樹林化が進行し、河川の至る所で雑木が繁茂し、洪水流下の阻害となることと、洪水時に流出した場合、下流の構造物に被害を及ぼす懸念がある。 密林状態に繁茂した樹木は不法投棄の温床になりうる。 河畔の竹林が密生しているので、豊田スタジアムのレストランから低水路の水が臭えなくて困る。 川の中の嵩にカラスの住かになっている一カラスの大群発生・・・農作物に被害が出ていることも考慮して欲しい。 樹木の管理等をボランティアに期待しすぎると、継続できなくなるのでは。 河川の中に生えている木は、管理者が切れぬか？（樹木管理）支川については樹木管理を含めて、整備が遅れている。 柳など樹木管理を適切に実施して欲しい 野鳥にも配慮して欲しい 地域住民の意見を聞いて樹木管理して欲しい 治水上あまり問題がなければ、樹木を切る必要はない 根元から木を切る必要はない 堤体にある木は、治水上、切る必要がある 市民感情と技術的問題は別問題とする 高水敷の草刈りをしてほしい。（河川敷10m位） 堤防の草刈りの回数を増やして欲しい。 ヨシや雑草が生えすぎて、川に近づきにくくなっている 河川清掃で刈った草を捨てる場所を確保してほしい 川の中なので、草刈りが非常に大変。学生も含め、延べ800名程度の人が手伝いを行っているがそれでも足りない。できれば、豊田市に散策路を舗装してもらいたいと考えている。（家下川） カメ虫が発生している（害虫の駆除など） 本川にカメ虫が異常発生している 堤防・堤脚周辺の沈下帯により、堤脚と堤防との間に空洞や水みちが形成されることがあり、適切な維持管理が必要である。 洪水流下の阻害要因になりうる柳枝工護岸の維持管理 東海豪雨の際、大量の流水が流入（補注）した 土砂流出・流木・濁水の長期化等を軽減 田んぼの濁水（水質）に困っている。 堤防の技術基準を満足していない工作物が存在し、洪水流下が阻害される要因となることがある。 円滑な情報収集・提供・共有のためにネットワークの高度化と整備の充実を図ることが必要である。 矢作川水系では、油の流出等、毎年のように10件を超える水質事故が発生している。 矢作川では、油の流出等、毎年のように10件を超える水質事故が発生している。 地球温暖化に起因する地球規模の気候変動と海面上昇といった課題が生じている。 衣浦港～矢作川河口付近の一色町周辺と、三河港の豊橋市沿岸域で海拔ゼロメートル地帯が広がっている			第2回住民懇談会（西尾） 第9回矢作川流域委員会 資料4 第9回矢作川流域委員会 資料4 第2回住民懇談会（豊田） 第2回住民懇談会（岡崎） 第1回市民会議 第1回地域部会（川部会①） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第1回地域部会（川部会②） 第2回住民懇談会（西尾） 第2回住民懇談会（岡崎） 明智川河川整備地域検討会 明智川河川整備地域検討会 第1回市民会議 第1回地域部会（川部会①） 第1回地域部会（川部会②） 第9回矢作川流域委員会 資料4 第9回矢作川流域委員会 資料4 第9回矢作川流域委員会 資料4 矢作川水系河川整備計画 第1回地域部会（川部会①） 第9回矢作川流域委員会 資料4 第9回矢作川流域委員会 資料4 三河湾流域圏再生行動計画 第9回矢作川流域委員会 資料4 矢作川水系河川整備計画 三河湾流域圏再生行動計画
河川管理施設の管理	河川管理施設の適正管理	河川内の除草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りの回数が少ない</li> <li>・刈草置き場の確保不足</li> <li>・カメムシの異常発生</li> </ul>				河川管理施設の劣化			
矢作ダム管理	適正なダム管理	ダム湖への流水の流入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖への栄養塩類、有機物の流入</li> <li>・河川への流水の流出</li> <li>・濁水の長期化</li> </ul>				洪水流下の阻害要因になりうる柳枝工護岸の維持管理			
許可工作物の管理	許可工作物の適正管理	許可工作物の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防の技術基準を満足していない工作物が存在している</li> </ul>				東海豪雨の際、大量の流水が流入（補注）した			
危機管理対策	情報ネットワークの構築	情報ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報ネットワークが脆弱</li> <li>・水質事故の頻発</li> </ul>				東海豪雨の際、大量の流水が流入（補注）した			
危機管理対策	水質事故への迅速な対応	水質事故への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質事故の頻発</li> </ul>				東海豪雨の際、大量の流水が流入（補注）した			
危機管理対策	地球温暖化の影響把握と対策	地球温暖化の影響把握と対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海面上昇への懸念</li> </ul>				東海豪雨の際、大量の流水が流入（補注）した			

維持管理

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会		委員会等の意見	根拠	
	大分類	小分類		山川	山川海			
維持管理	不法投棄への対応	不法投棄対策 一般課題35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄、不法放置、不法投棄</li> <li>・海岸への流入ゴミ</li> <li>・漂着物処理の負担増</li> </ul>			<p>ゴミの不法投棄が多く見られます。</p> <p>一部の河川利用者によるゴミ投棄や上流部、支川等から流出してくるゴミに加え、家電製品や自動車等の不法投棄が発生している</p> <p>名鉄電車の下り残骸の撤去。</p> <p>船舶の不法投棄や車両などの不法放置、ゴミや汚物の不法投棄、落書きなどが発生し、景観を損ねるだけでなく、悪臭、保安、処理費用などの問題が発生している。</p> <p>海岸利用者等による海岸への放置ゴミや隣接からの流入ゴミ等の散乱が、海岸の生態系や景観、そして海岸利用に悪影響を及ぼしている</p> <p>プレジャーボートの不法投棄（放置問題）が問題となっている。</p> <p>漂着ごみでは、近年、河川等から流出したと考えられる流木が問題となっており、今以上に耐えない不法投棄者、汚染放流者の摘発。</p> <p><b>ゴミ（ペットボトル、空き缶）の不法投棄が多い。大雨が降ると上流から流れてくる。（加茂川）</b></p> <p><b>流入ゴミの処理は誰が行うのか。ルール化が必要ではないか。</b></p> <p><b>家下川に不法投棄がされている。</b></p> <p><b>海岸には多くのゴミが流れてきており、拾ってもキリがない状況である。</b></p> <p><b>ゴミ、洪水時に下流に流れ落ち、今年はスナメリがゴミを食べて6頭亡くなった。</b></p> <p><b>河川へのゴミが多い。（山での生活ゴミもある）</b></p>	<p>第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>矢作川水系河川整備計画</p> <p>第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>第8回矢作川流域委員会 資料-4</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>三河湾流域圏再生行動計画</p> <p>市民会議準備会</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回地域部会（川部会①）</p> <p>明智川河川整備地域検討会</p> <p>明智川河川整備地域検討会</p> <p>住民説明会（根羽村）</p> <p>第10回流域委員会</p> <p>第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>住民説明会（根羽村）</p> <p>第2回住民懇談会（岡崎）</p> <p>住民説明会（根羽村）</p> <p>住民説明会（根羽村）</p> <p>市民会議準備会</p> <p>矢作川流域圏懇談会 設立総会</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回地域部会（川部会②）</p>	
				63		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川清掃等への意識の低さ</li> </ul>		
				64	河川清掃の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政間の連携不足（市町村内 部局間、市町村間、県と市町村、県と県、国と市町村）</li> <li>・矢作川水海基金の有効活用</li> <li>・管生民連携不足</li> <li>・上下流交流の不足</li> <li>・行政への過度な期待</li> </ul>		
	流域運命共同体としての意識向上	流域内の連携強化						

分類	課題		問題点 (キーワード)	地域部会			対応課題	委員会等の意見	根拠
	大分類	小分類		山	川	海			
流域運動共同体としての意識向上	66	情報共有・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有意識の不足</li> <li>・共同体意識の不足</li> <li>・水に親しむなど水循環の観点からの啓発活動の不足</li> <li>・支川に関する情報提供不足</li> </ul>	●	●	●	<p>豊川流域圏で実施されているメールマガジンのように、流域全体の情報を発信する仕組みを作って欲しい。</p> <p>森林の荒廃や管理状況、森林管理の効果等に関するデータが必要。</p> <p>ごみの不法投棄抑止に向けた情報共有や啓発活動また、関係者の連携が必要。</p> <p>治水施設の機能・役割についての誤解や理解不足</p> <p>国、県と河川管理者がバラバラであり、河川水辺の国勢調査等において、流域内の自然環境を上流から下流まで支川を含めて一体的に調査することが必要であり、流域住民が自然を身近に感じ、河川環境を守るために川の自然についての情報提供が重要。</p> <p>河川改修のような行政が主体の問題については、市民も行政と一緒に頑張って見を出し合い、計画を練り上げていく姿勢が必要だと思う。行政と市民の共同意識を作り上げていく努力が必要と思う。</p> <p>課題については、「見える化」だけでなく見ようとするのが重要だと思う。海側の側は山の方を見なければならぬし、山も海のことに関心を持ってもらうことが重要。</p> <p>上下流の相互理解が必要。</p> <p>脱無関心。関心を持つ人が少ない。</p> <p>川を守る気運を高めることが重要。</p> <p>市民会議ででた川に対する思いと課題を共有するべき（資料2 P3~4、p6~）</p> <p>本川と支川の治水安全度等の違いを市民に理解してもらおうような取組みが必要</p> <p>もの、人、生き物の3者の関係が改善されるようにしたい</p> <p>(海の問題を解決するには)川・山の問題を知って対策することが重要。</p> <p>利害関係者やいろいろな地域の人がたまたまく調整していかなければならぬ。公平性とか透明性についてはこの会(矢作川流域圏懇談会)がサポートし、科学的合理性や客観性を確保するために、この会の字頭経験者がサポートして欲しい。</p>	第2回住民懇談会(豊田)	調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて
					●	●	●	<p>第1回地域部会前、学識者懇談</p> <p>調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて</p> <p>市民会議準備会</p> <p>矢作川流域圏懇談会 設立総会</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回市民会議</p> <p>第1回地域部会(川部会①)</p> <p>第1回地域部会(川部会②)</p> <p>矢作川流域圏懇談会 設立総会</p> <p>矢作川流域圏懇談会 設立総会</p> <p>矢作川流域圏懇談会 設立総会</p>	
維持管理									